

記入日（西暦） 2025 年 12 月 25 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

## 医療薬学学術小委員会 研究活動報告書（継続）

### 1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2024 年度 医療薬学学術第3小委員会
研究テーマ	生成系 AI の薬剤師業務への応用に関する実態、課題やニーズの調査

### 2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	キヨミヤ ケイスケ
	氏名	清宮 啓介
	所属施設の名称 (正式名称)	慶應義塾大学病院 薬剤部

構成委員	氏名	所属	次年度
	若林 進	杏林大学医学部付属病院 薬剤部	継続
	男全 昭紀	横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部	継続
	大野 能之	東京大学医学部附属病院薬剤部	継続
	河添 仁	慶應義塾大学薬学部	継続
	佐藤 弘康	JA 北海道厚生連網走厚生病院薬剤科	継続
	大谷 壽一	慶應義塾大学医学部	継続

注) 「次年度」には、継続、新規(次年度から追加)、退任(今年度を以て退任)のいずれかを記入すること。

### 3. 研究の目的

生成系 AI は文章生成、言語翻訳および質問応答など優れた自然言語処理機能を有している。代表的な生成系 AI である ChatGPT3.5 は 2022 年の発表以降、急速に普及した。教育現場においては各大学が生成系 AI の利用に関する指針を発表しているが、医療現場における指針は発表されておらず、その利用状況は不明である。生成系 AI は、入力された情報が AI の学習に利用されるため、医療現場においては個人情報流出の懸念などの問題点も指摘されている。また、出力された情報の誤りや妥当性を確認する必要性も、懸念点として指摘されている。実際に、申請者らは ChatGPT3.5 を利用し、OTC 薬に関連する質問を投げかけた場合の回答を分析し、その問題点について英文学術誌に報告している (Kiyomiya et al., Die Pharmazie,

2024, 79, 24-28)。2024 年度から医師の働き方改革が施行され、各施設においてはタスクシフト/シェアが押し進められている。その中において、病院薬剤師の活用も積極的に進めていく必要があるが、そのためには従来業務の効率化が求められる。また、病院薬剤師の不足、地域偏在も指摘されており、限られた人材を有効に活用することが不可欠である。以上のような背景から薬剤師業務において生成系 AI を利用していくことは、今後の業務に欠かすことができないツールとなり得る可能性がある。そこで、本研究においては、アンケート調査などを介して、各施設と各薬剤師における生成系 AI の利用状況とその実態をできる限り正確に把握する。これにより、生成系 AI の病院薬剤師業務への活用に関して、その可能性と課題を明らかにし、最適な活用方法を見出すとともに、「病院薬剤師業務における生成系 AI 活用のガイドライン」を作成することを目的とする。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

#### 4-1. 研究活動報告（これまでの研究成果と達成度）

##### 1. これまでの研究成果

本研究では、生成 AI の活用状況について日本医療薬学会の会員が所属する施設および各会員を対象として 2025 年 1 月～2 月の期間において、アンケート調査を実施した。

各会員向けのアンケート結果については論文としてまとめ、医療薬学誌へ投稿し、アクセプトされた。また、第 35 回日本医療薬学会年会においてシンポジウムを開催し、委員長の清宮が当該アンケート結果の概略について発表した。また委員の佐藤が生成 AI の種類と特徴について発表した。

##### 2. 達成度

2 年目においては、アンケート内容の論文投稿および日本医療薬学会におけるシンポジウムを予定通り開催することができた。一方で、論文のアクセプトまでに想定以上の時間を要したこと、シンポジウム準備にも時間を要したこともあり、当初予定していたアジア諸国へのアンケート調査を実施するところまでは実現できなかった。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

#### 4-2. 研究業績（学会発表、論文等）

##### 【論文】

清宮啓介, 佐藤弘康, 男全昭紀, 若林進, 大野能之, 河添仁, 大谷壽一, 生成 AI の病院薬剤師業務における利活用の現状と課題 : 横断的アンケート調査, 医療薬学, 2025, in press

##### 【学会発表】

第 35 回日本医療薬学会年会 シンポジウム 17

「薬学領域における生成 AI: 利活用の現状と課題」

注) 本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

## 5. 次年度の活動計画及び到達目標

### 1. 学術小委員会としての研究活動期間

2024 年 4 月 1 日 ~ 2027 年 3 月 31 日まで 通算 3 年間の 3 年目

- ・ 会議の開催予定回数 3 回

### 2. 次年度の活動計画及び到達目標

(前年度の活動計画又は到達目標を変更する場合は、その理由を記載)

2-1. アジア諸国へのアンケート調査を実施し、日本の現状と比較することを目的とする。当初、2 年目において調査会社への依頼も検討したが、小委員会の活動費では捻出が不可能であったため、異なる方法を模索する必要があった。また、論文アクセプトまで時間を要したこともあり、計画を 3 年目に後ろ倒しとした。現在、英語版のアンケート内容を委員会内で検討中である。検討終了後、倫理委員会へ申請、承認後に web アンケートを実施する予定である。

### 2-2. 生成 AI 活用ガイドラインの作成

最終年度においては、これまでの知見を活かし、病院薬剤師業務における活用ガイドラインの作成に着手する。他の団体から出されているガイドラインを参考に作成していく。

### 3. その他

特になし。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

## 6. 共同研究、他学会・団体からの支援 (COI 申告を含む)

記載すべき事項なし。

注) 提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

## 7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況 (倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む)

慶應義塾大学薬学部 倫理委員会承認済み(承認番号:承 241010-1)

注) 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

## 8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 424,191円

費 目	過年度	次年度	全期間
(1)データベースの利用料			
(2)アンケート調査費			
(3)会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費			
(4)機器等のリース、レンタル費			
(5)印刷、製本費			
(6)通信、運搬費用			
(7)講師謝金、旅費等(本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る)		50,000	50,000
(8)運営スタッフ雇用費			
(9)支払手数料			
(10)消耗品費			
(11)業務委託費		264,191	264,191
(12)小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費	3,000		3,000
(13)倫理審査の受審料			
(14)論文投稿料、掲載料	3,300	60,000	63,300
(15)雑費	69,509	50,000	119,509
合 計	75,809	424,191	500,000

注) 過年度の支出額(過去に支出した金額)、次年度(単年度)及び全期間の支出見込みを記載すること。

## 9. 次年度支出計画の内訳

- (7) 講師謝金は、ガイドライン作成のための専門家アドバイスをいただく機会を踏まえ、計上した。
- (11) アンケート調査解析もしくはガイドライン作成のための委託費を計上した。
- (14) アンケート調査結果の医療薬学誌への掲載料を計上した。
- (15) 本研究活動は、病院薬剤師業務における生成 AI の活用、課題を把握することである。そのための雑費として生成 AI 有料版の利用料を計上した。

注) 費目ごとに詳細な支出計画を記載すること。